

抄録作成要領

1. **用紙**：発表抄録はワードプロセッサを用いて、A4判用紙、縦置・横書き、上下左右余白はいずれも25mm、刷り上がり2ページで作成する。
2. **題目等**：全角45字×40行（フォントサイズ10.5）で設定し、1行目に研究題目をゴシック12ポイント中央揃えで記入する。副題がある場合には2行目にゴシック10.5ポイント中央揃えで記入する。副題がない場合は2行目を空白のまま残す。4行目に発表者氏名（所属）を記入し、続いて共同研究者氏名（所属）を明朝体で記入する。それぞれの氏名（所属）は「・」で区切り、中央揃えとする。6行目にキーワード（題目にない重要用語2～4語）を明朝体で記入する。それぞれのキーワードは「,」で区切る。7行目は空白にする。
3. **本文**：8行目から2段組、明朝体で記入する。1段の文字数は全角22字、行数は40行。ひらがな現代かなづかいとし、外国語をかな書きにする場合はカタカナで表記する。句読点は「.」「,」を用い、英数文字は半角にする。目的、方法、結果、考察、結論など、研究内容の特性に応じて小見出し（ゴシック）をつけてまとめる。
4. **図表および写真**：図表および写真は鮮明なものを本文枠内に収める。図・写真のタイトルは下側に、表のタイトルは上側に記す。
5. **ページ**：抄録集としてまとめる際に連続ページを付すため、原稿にページはつけない。
6. **抄録の提出方法**：作成した抄録はPDF形式に変換し（Wordなどでメールに添付した場合、レイアウトが崩れることがあるため）、メールに添付して大会実行委員会に送付する。
7. **著作権**：抄録集に掲載される抄録の著作権は、日本ハンドボール学会に帰属する。

作成例

卓越したセンタープレーヤーにおける1:1の突破に関する動きのコツ —国際レベルで活躍した選手の語りを手がかりに—

會田 宏（筑波大学）・富本栄次（郡山女子大学）

キーワード：インタビュー調査、フェイント、使い分け

I. 目的

スポーツにおいて動きを指導する場面では、「動きがどのようなになっているのか」といった客観的な情報を選手に与えるだけでなく…

II. 方法

1. 対象者

対象者は、国際レベルで活躍し、現役を引退していた1名のハンドボール・センタープレーヤーである。これは、本研究の筆頭執筆者が…

2. インタビュー調査の内容と方法

調査内容は、現役時代に得意であった技や動きのコツ、コツを獲得するまでのプロセス、コツ獲

得後の変化などであった（中込，2003）．…

3. 分析方法

インタビュー調査の音声記録から、すべての発言内容を文章におこし、それを、競技生活を支えたプレー、獲得した動きのコツ、フェイントの使い分け、プレー中の状況の変化への対応…

III. 結果と考察

1. 競技生活を支えたプレー

1:1を抜くフェイント。状況に応じて、ステップフェイント、キャッチングフェイント、スイングフェイント、ローリングフェイントの4つを使い分けていた。